

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

あけましておめでとうございます

昨年中は大変お世話になりました。弟子俊浩が修行を終えて戻ったこと、前住職の 7 回忌と寺族の法要、

もろもろの工事が進み蔵の屋根瓦の葺き替えのみとなったことなど、全久院にとっても節目を迎えた年であったかと思えます。

また、座禅会・観音講・ご詠歌の会・歌の会など全久院での集いも順調に進んでいます。法事の時などで「お寺は敷居が高くて」と言われるときがありますが、何とか皆様に集っていただけるような場所にしたいと思っています。また「住職は急がしそうで、もっと寺にいて欲しい」と言われます。私の中では、子供のころ「寺は葬式と法事やってりゃ食えるでいいなあ」と言われたことが今でも耳に残っていて、葬式法事だけでない寺にしたいということがどうしても頭から離れません。晋山式が平成 16 年に行われ 10 年が過ぎました。今年は新たな 1 年の一步を踏み出す年です。全久院の将来を見据えてどこにどう踏み出すかじっくり考えてみたいと思います。

また、表千家茶道では今年松本市で全国大会を 5 月 29・30 日に開催します。全国から 1000 人ほどの方が両日着物姿で市内を巡り、次々とバスから降りてきて松本城、料亭松本館、護国神社、大王わさび、ホテル・ブエナビスタなどで茶を楽しみます。全久院が長野県の事務局になっていますのでこの日前後は大混乱かと思えます。「やけに着物が目に付くな」と思われたら、全国大会で住職が市内を飛び回っていると思っただけならと思えます。「利休にたずねよ」という映画が評判になったり、「おもてなし」が流行語になったりしましたが忙しさに負けず、日本人の心、松本の心を失わずに、さらにその中にある本物を探ってゆきたいと思えます。

後のコラムでも紹介しますが、SVA が海外での支援活動をビルマ国内でスタートさせます。その許可をビルマ政府から頂く調印式が昨年あり、同行しましたが、その席で情報省副大臣・大統領補佐官が日本語で「座禅・悟り」と言い、ビルマ仏教との違いを切り出しました。政治・経済・産業ばかりでなく、哲学や心の本物のところが問われる時代になっていると思えます。社会情勢ばかりでなく、自然も激変する時代です。自分をしっかり見つめて、自分の足で一步を進めて行く年だと考えます。

全久院の集い**坐禅会**

・ ・ 「趙州柏樹（じょうしゅう はくじゅ）」 ・ ・

坐禅会では「従容録」を勉強していますが、中国の修行僧が師匠と問答をする文章が数多く出てきます。その中に何度も何度も出てくる禅僧の一人に「趙州（じょうしゅう）がいます。778～897 年と年号が刻まれています。なんと 119 才です。弟子から「達磨さまはなぜ中国に来られたのですか」と問われました。達磨さまが伝えたかった仏法とは何かを問うたのですが、趙州は「お前の目の前の庭に生えている柏の木だよ」と答えられたという、「趙州柏樹」と言われる有名な問答です

青山俊董師の解説をちょっと長いですが掲載します。

「私一人を生かすために微生物たちが大地を清掃し、私一人のために植物が、微生物の調べてくれた大地に育ち、私一人のためにその植物や、その植物を食べて育った動物たちが生命を

提供してくれる。これら生命あるものたちが地球上に安らかに生きてゆくために、地球と太陽が1億5千万キロという距離のバランスを保ち続けてくれ、そのバランスの背景には、太陽系惑星相互の引力バランスがあり、更に、太陽系惑星の相互の引力のバランスの背景には、宇宙空間に広がる他の銀河系惑星軍との引力のバランスがあるという。又、地球が一日二十四時間で一回転できるようになったのは、地球から月という衛星が生まれたお陰であり、もし月の引力の働きかけがなかったら地球は一日六時間で回転し、その速さでは人も動物も存在しえないという。つまり、私一人を生かすために地球上のあらゆる動植物が存在し、私一人のために地球も月も、そして太陽から太陽惑星、更には銀河系惑星群のすべてがめぐっている、と言うのである。気付く気付かないにかかわらず、生命を授かったその最初から、いや、生命をいただくそのことすら、宇宙総力をあげてのお働きをいただいて、初めて可能なことなのである。この働きを仏教の世界では『仏性』と呼ぶ」

まるで宇宙科学者の論文かと思われる文章です。仏教とは何ですかの問いに、庭の柏の木ですと答えた趙州の真意はここにあります。青山師はよく「宇宙総力をあげてのお働き」という語を使われます。「宇宙総力をあげてのお働き」により、何百億年かけて私しという命が育まれました。この重さをどう捕らえ、どう生きるか、私たちに課せられた一生問い続ける禅問答と考えます。

観音講 . . . ヤショウマ作り . . .

2月お釈迦様が亡くなられた日に涅槃会（ねはんえ）というお勤めをします。その時仏前に供えるのが「ヤショウマ」です。ヤショウマの起源は良くわかっていません。通説ではお釈迦様が最後の供養を受け食事をしましたが、体調を崩し、供養をしてくださった方ヤショウ尊者に「ヤショウ旨かったぞ」と言われたから「やしょうま」になった、とありますが？

歴史ではお釈迦様は「今から3ヵ月後には入滅するであろう」と弟子に継げて、最後の説法の地に向かわれた。それはインドの中北部パーヴァー町と言われています。金属細工人のチュンダが最後の食事の供養をしました。その後背中に痛みを感じながら最期の地クシナガラに向かわれた、とあります。この食事に関して「梅檀樹のキノコ」「いのししの肉」が体調を狂わせた原因と後に言われていますが、定かなことはわかりません。パーリ語の経典には「スーカラ・マッダヴァ」を食してとあり、野豚の肉・野豚の好むタケノコ・野豚の踏みつけた土地に生え

るキノコ、葉草などの解釈があるそうです。中国語のお経には梅檀樹のキノコとあります。およそヤショウマとはかけ離れたものです。

それより気に掛かるのが供養をしたチュンダです。お釈迦様は「悟りを開いたときの食事と、入滅のときの食事とは、ともに功德果報が大きいものであって価値が等しい」と言われたとされます。この一言でチュンダは救われたのです。自分が供養した食事が死の原因と言われたら . . . 。



信州は月遅れでお祭りをしますので、ヤショウマは3月の観音講で作ります。もっと複雑で、花などに似せたものまでありますが、まだ全久院のヤショウマは上の写真のとおりです。焦げ目が少し付くくらいに焼いて甘醤油をつけて食べると美味しいですよ。一緒に作りましょう。

ご詠歌 ご詠歌の会ができて10年程になるでしょうか。最近講員の皆さんは楽譜を見ながら正確にお唱えできるよう腕前が上がってきました。右の写真は昨年の新年会の懇親会でのご詠歌発表の様です。参加者の皆さんが気楽に口ずさめる曲や、練習しないとなかなかお唱えできない高度な曲と合わせて発表していただきました。後ろの席でお唱えいただいたのは観音講の皆さんです。ご詠歌の皆さんに曲を引っ張ってもらい楽しくお唱えできたとのことでした。



この他、施食会の法要の時導師の入退場にお唱えいただいたり、ご詠歌の県大会や全国大会に参加したり、松本仏教会の花祭り式典でお唱えいただいたり、去年は特に前住職の法要でお唱えいただくなど、さまざまな機会にお唱えいただくようになりました。「私もやってみたい！」方ぜひお仲間になってください。お願いいたします。

施食会 昨年は今までの施食会にバザーを加えました。本堂北の稲荷堂で店を開いたのですが、多くの方に協力いただき、SVAを通して東日本の被災地支援に協力しました。

いつもどおりお参りの皆さんは11時ころから三々五々集まり、12時よりの全久院手作り弁当を食していただき、住職の東日本での活動を聞いていただきました。1時から「全久院歌の会」に観音講の皆さん



が加わり、日ごろの練習の成果を発表し、懐かしい唱歌や最近の心に残る歌を1時間ほど参加者全員で歌いました。

最後に2時から読経をし、皆様にお焼香をしていただきました。お経を引っ張る役を「維那」といいますが、俊浩が勤め、本山仕込みの朗々とした徹る声で盛り上げてもらいました。全久院の催しのさまざまな会が集まっ

て施食会ができるようになって来ました。皆様のお寺へのご協力の集結と思います。少しずつですが、檀信徒の皆様の心が安らげる場を目指します。

本山講 昨年は10月16～18日、永平寺参拝と京都嵐山の旅を企画しました。前住職の話では30年ほど前は全国各地を5～6台のバスで回ったとのことですが、最近は団体旅行への参加者が



少なくなり、今回はバス1台での旅となりました。「本山講」とは耳慣れないかと思いますが、まずは大本山永平寺・総持寺をお参りして、それから観光、という主旨の旅です。松本地区18ヶ寺の住職さんや檀信徒の皆さんが参加されます。昨年は永平寺をまずお参りました。大本堂で皆様の先祖供養と幸せを願う法要をしていただきました。出発した10月16日は猛烈な台風が本土を直撃した日に当たりましたが、東日本に上陸したため、何とか雨の中でもお参りすることができました。この日禅師様は本山の外でのお勤めに出られたとのこと、代わりに禅師様の部屋で記念写真を撮りました。



午後には晴れ間ものぞき、観光地へと向かいました。今回の目玉は保津川下りでした。大水害で被害を被った一月後でしたが、すでに復旧していてその迅速さに驚かされました。保津川下りを経験された方はご承知と思いますが、1時間半の行程は「笑っぱなし」でした。船頭さんの軽妙な説明に参加者全員腹を抱えました。もうすぐ嵐山終点というとき下流から3隻の軽食や土産を積んだ船が近づくと「一隻目はセブンイレブンです、2席目はローソンです」すると参加者私たちが「3席目はファミリーマート！」の大声。船頭さん含めて大爆笑でした。

次回は平成27年総持寺様へ行きます。一緒に！

茶道コーナー

映画「利休にたずねよ」が評判になりました

「おもてなし」という言葉が流行語大賞に選ばれました。茶道教室を持っている全久院にとっては一大事。流行語でもてはやされるほど「おもてなし」は簡単にはいきません。おもてなしの基礎を築いた利休の茶が、利休切腹の後どう復活したか知ってもらいたいのです。

以前にもこのコーナーで記載しましたが、利休さんは様々な理由で切腹を命じられ1591年2月28日その生涯を閉じました。利休には先妻に「道安」、後妻宗恩の連れ子「小庵」の二人の跡継ぎがいました。宗恩は映画にも出てきた方ですが、小庵の男親は能の小鼓打ちの「宮王三入」の三男と言われているので、利休とは血が繋がっていません。利休は道安に堺の魚問屋の職を継がせ、少庵を副業の千家の跡継ぎと考えていたようです。道安にも茶人としての豊かな才能がありましたが、小庵の方がどうも勝っていたようです。少庵は堺から上京、大徳寺前の利休屋敷に仮住まいしていましたが、その後二条釜座、衣棚（ころものたな）に屋敷を設けました。現在でもこの地には千家に縁の深い、堀内家、楽吉左衛門（楽焼）の工房と美術館、大西清衛門（釜師）の工房と美術館があるなど、茶にゆかりの深い地となっています。秀吉は京都の町整理のため道路を新設するに当たり、この屋敷を現在の千家の屋敷のある地へ移しました。利休切腹の1年前のことです。利休切腹に当たり、道安も小庵も所払いを命ぜられ、小庵は一時飛騨高山の金山



に身を寄せ、後に会津若松の蒲生氏郷（がもううじさと）を頼り数年かを過ごしました。蒲生氏は近江の国、蒲生郡の生まれで、若い時織田信長に見いだされ、娘の冬姫を妻に迎え、利休七哲にもあげられる茶人でもありました。こうして見ると、松本に近い高山市は茶と深い因縁があり、後には金森宗和を輩出したり茶の文化豊かな地となっています。また、NHK 日曜日の大河ドラマの地会津も茶と深い関係があります。文化の深い香りのする地には今日までかわりの深い歴史が残り、住む人々の強い郷土愛が感じられます。松本はどうでしょうか？

さて、千家の復活を願う徳川家康と蒲生氏郷の嘆願によって秀吉も小庵を赦し、上京させました。これが有名な「小庵召出状」です。この写真のとおり家康と氏郷連署が見られます。表千家の会員に送られる「同門」誌に掲載されたものです。11月13日の日付けの下が家康の署名と花押です。中央の政治と文化が直結していた時代でした。文禄4年春小庵は帰京し、千家の復興が始まります。復興に力を発揮したのが妻、宗桂（一説には利休の娘、お亀とも云われ、利休の血が繋がったのです）でした。家元現在の地、本法寺前に家を再興し、利休聚楽屋敷のつくばいを茶庭に配し、残月亭の写しを建て、再興が成りました。小庵を取り巻き、現在もその名が知れる方々の尽力をいただき再興が成ったのですが、この歴史がなければ「おもてなし」の流行語も生まれなかったのではないのでしょうか。一つの言葉にも現代に繋がる様々な歴史が背景にあります。茶道を習うということ一つとるだけでも、一つずつ歴史を紐解いてゆく難しさと、楽しみがあります。私も60才になって今までバラバラにやってきたことが、一つずつ結びついてゆくような気がしてなりません。面白いですよ！

長生会 堀内宗完古希祝賀茶会 以前にも説明しましたように、堀内家の当主は代々「宗完」を襲名します。その宗完宗匠の古希のお祝いの茶会が昨年11月9日に京都の建仁寺で開かれ、お祝いに行っていました。建仁寺の境内の塔頭が開放され、それぞれの場所の特徴を茶席に取り込んでの茶会でした。建仁寺と関係の深い堀内家だからこそできる茶会で、この機会が無ければ近寄ることのできない建物でもようされた茶会でした。右の赤いリボンの方が宗完宗匠です。茶人であるばかりかスポーツマンでもあり、毎年のように、冬スキーを一緒にさせていただいています。その時ばかりは宗匠の前を走り、雪煙をあげています。申し訳ありません。



法要の会場は是非お寺をお使いください

このコラムを掲載して数年になります。檀家の皆様にも次第に浸透してきて、寺での法事や葬儀が増えてきました。寺とホールの葬儀費用を比較してみますと、100人のお参りの人が来る葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、業者ではお参りの人一人当たり25000円かかるという計算をしているようです。100人の会葬者があるとすると、100人×25000円＝250万円。寺を使えば一人当たり10000円ほどですので、100人×10000円＝100万円。差し引き150万円の差が出ます。

「寺を使うと人手がかかり大変ではないのですか？」と聞かれるのですが、まったくご心配は要りません。ヒラバヤシ式典部（電話32-8700）かメモリアルライフ信州（電話40-7

745)へ電話するだけです。後の手続きはみな業者がやってくれます。業者も対応の仕方が慣れてきて、心配りが大変嬉しかったとの声も聞いております。

葬儀や法事は宗教的な儀式を通じて、悲しみや心の乱れを整え、亡くなられた方の分まで生きようという力にかえる過程と思います。その場は寺がふさわしいと思います。ピンと張った空気や静けさ、木や土や畳で作り出される空間で人は癒されると思います。様々な事情で仕方のない場合もありますが、是非経済的にもお寺を使っていたきたいと思います。イスに坐っていたり、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非一考ください。いざという時では時間に追われ、後で後悔というようにもなりかねません。自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。

りらの会にご協力ください 寺での法要の手伝いをしていただいているグループが「りらの会」です。現在は10人ほどで、週一回木曜日の掃除と、随時依頼される法要の手伝いをしています。檀家の皆様にもぜひ会員として登録いただき、お手伝いいただきたいと思っております。お手伝いの条件は、1時間1000円ほどのお礼を差し上げていますが、そのうち会の運営費を若干納めていただいています。寺での法事の回数が増えており、時間調整がしにくくなる前に是非多くの方に仲間になっていただき、お寺の手伝いをお願いできたらと思います。「人のお手伝いをさせていただける分、させていただいている自分のほうが心豊かになっているように感じます」と会員の方から言われ本当にうれしく思っています。皆様のご参加ぜひご参加お願いいたします。

住職の活動

SVAビルマでの活動開始

私が理事を務めていますSVA（シャンティ国際ボランティア会）は昨年ビルマ国内での活動開始に向けて調査を行ってきました。現在まではタイ国内にあるビルマ難民キャンプ（カレン族が収容されている）で活動していましたが、反政府活動を



している少数民族のカレン族の支援と見られ、SVAはミャンマー政権からは敵対する組織と見られていたかもしれません。現在の政府は自由化、民主化を推し進めており、SVAの教育・文化・伝統支援の活動が認められ、ミャンマー政権はSVAの国内活動を許可する、という調印式をすることになりました。

昨年11月19日に成田を出発し、23日首都ネピドーの情報省での調印式に同行しました。写真は握手する政府の担当官と、別所温泉安楽寺住職若林SVA会長、後ろに白い民族衣装を着た大統領補佐官・情報省副大臣が見守っていました。

ビルマは仏教国で、皆さんもパゴダ（仏塔）の写真をご覧になったことはあることでしょう。その寺の境内では多くの方が静かに手を合わせて祈りをささげていました。金色と派手な彩色の中、思いもかけない静かな空気が流れているのに驚かされました。

皆さんご承知のとおり、ミャンマーは軍事政権下で、民主化を求めるアウンサンスーチー氏の軟禁、僧侶を先頭のデモ行進など



マスコミに取り上げられて来ました。私も今勉強中で、また、詳しい報告をしたいと思いますが、政治についてはここで止めておきます。現在は自由化、民主化が進行中で、日本企業も進出を前提に調査を開始しています。

こんな状況下でSVAは学校支援、図書館活動、民族文化の復興支援などを事業化する予定です。というのも、ビルマでは仏教寺院が活発な事業を行っているからです。この写真は孤児院小学校です。ピンクのローブを着ているのは得度した女の子で、ここで暮らしています。下の写真の尼僧さんが



托鉢をしたり、近所の家や店や企業から寄付を集め子供たちの世話をしています。孤児院は尼僧さんが経営し、小学校は国が運営しています。学費は無料ですが、文房具や諸費用が掛かります。村は貧しく子供たちの親は学校の費用を払えないので尼僧さんが托鉢し集めた浄財で賄うので無料です。このようにビルマでは仏教が現実の中で生きています。

SVAのような小さな団体では少しのことしかできませんがビルマの仏教界と協力すれば一番困っている人のところへ、直接支援ができると考えています。もう一枚の写真も仏教寺院が経営する小学校です。30年前に建てられ今にも崩れそうな教室で授業をしています。先生や教材は政府が担当し、卒業資格も公立の小学校と同じです。また、この寺の境内では小さな医療診療所もありました。薬が用意してある程度の診療所ですが、村人にとっては大切な病院です。尼僧さんや僧侶の方が300万円で5教室と職員室を備えた学校ができるのと、支援を要請しています。

SVAが培ってきたノウハウを総動員してこれからの活動が始まります。興味のある方は是非お問い合わせください。1月より現地に事務所を設け、専任の職員が常駐を始めます。

最初に情報省副大臣で大統領補佐官の話をしましたが、調印式後彼らと昼食を共にしました。その席で彼が「座禅・さと」と言い始めました。英語で話していたのですが、「ビルマの仏教は詳細なお経を勉強して、資格を取って行くが、禅は直感でさとりに至る。そのダイナミックさで世の中を動かすからビルマはそれを学ばなくてはいけない。お互い学びあいましょう」と切り出してきました。SVAの主旨は「共に生き、共に学ぶ」です。同じ哲学を持つ者同士、多くの困難や考え方の違いはあるかと思いますが、一緒に仕事をしましょう、と話を結んできました。軍事政権の担当者の中にも少し変化があるのではないかと思いました。私も時間ができたら、もう一度訪れたい国の一つになりました。

絵本をビルマに贈ります、お手伝い募集! SVAは東南アジアの国々へ絵本を贈っています。日本語の絵本に現地語の翻訳文を糊付けして贈るのですが、その糊付けを日本国内の学校や寺



院などのボランティアを募って、作業をしてもらいます。その糊付けが正確にできているかを検査する作業を全久院でしています。1月20日までに作業を終え、横浜港に搬出します。1月中の作業になりますので、このボランティアに興味のある方、寺まで問い合わせください。難しい作業ではありません。ビルマ語もわからなくて結構です。ちょっとしたコツを覚えていただければ誰にでもできます。何時するの？ 今でしょう！

大黒コーナー

全久院歌を楽しむ会 発表会

大黒は現在3つのグループの合唱指導をしています。「全久院歌を楽しむ界」を中心に今年一年の成果を発表する会を催しました。初めに体操も含め、全員で発声練習。



体が楽器になると良い響きが生まれます。良い響きが出る体は健康です。健康で長生きの秘訣が発声練習に繋がります。発声が出来上がったらいよいよ本番。まずは四季折々の唱歌。子供の頃歌った歌はいいですね。身も心も若返らせてくれます。続いて大黒のソロ、オペラのアリア2曲など歌い上げました。最後に全員で今年練習してきた合唱曲を歌い上げました。技術はだいぶ上



がってきたと思いますよ。発表が終われば、お楽しみ会。お茶で培った料理の腕も披露して、全久院秘伝の技で鰹節や昆布から出汁を取り、京都から取り寄せた麩入りの吸い物碗を賞味してもらいました。さらに抹茶。ちょっとやりすぎカモ。来年も歌の会を計画していますので仲間作りにも最適です。関心のある方は是非連絡ください。

喜歌劇 シュトラウス作 「こうもり」公演に向けて 大黒の主催する「オペラを楽しむ会」と、信州大学を中心に音楽家が構成する「土の会」が主催し、今年10月19日（日）公演会をまつもと市民・芸術館主ホールにて行います。

松本市では他団体が公演していますので、「こうもり」を知っていらっしゃる方も多いかと思えます。確か運動会で聞いたことがある、この曲どこかで聴いたな、と皆様も知っている曲が次々と演奏されます。物語はオーストリアの温泉地、仮面舞踏会から始まります。主役の一人ファルケ博士は仮装姿の「こうもり」のまま友人アイゼンシュタインに酔ったまま道に置き去りにされます。その仕返しのお話が、オペレッタ喜劇に表現されて行きます。

裕福な貴族アイゼンシュタインは公務員を侮辱した罪で、短期間刑務所に入らなくなりました。そこからファルケ博士の巧妙な仕返しが始まります。男女関係のもつれも組み込み、さて最後はどうなることやら。

長野楽友協会オーケストラをバックに軽快な場面が進み、日本語で分かりやすいステージとな

っています。大黒は主役の一人アイゼンシュタインの妻「ロザリンデ」として出演します。先の写真は昨年夏イタリアイタリアのベッルーノ市で開催されたスィルバ・ステッラ先生とレナード・パルンボ先生の講習会に参加した模様です。2週間のレッスンを受け、合格したものがオーケストラ伴奏でステージに立っています。このような練習がすでに始まっています。

昨年5月の歌劇ラ・ボエームに続く喜歌劇となりますがぜひ皆さんにも聞きに行ってくださいたくご案内いたします。オーケストラ伴奏となるため、チケット代は全席自由で大人5000円、高校生以下1000円です。お問い合わせは全久院までお願いいたします。



掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

・ ・ ・ 檀信徒護持会新年総会 ・ ・ ・

1月18日(土) 4時より全久院で開催します。全久院の催しに参加していただいている方々など、より多くの方に参加していただきたく企画しています。茶道部の皆さまの協力により、**3時より茶室にて薄茶**を差し上げます。お正月の新たまった飾りつけの中、日常とは少し違った雰囲気味わい、檀家の皆様にも堅苦しくなくお茶に触れていただこう思います。**4時より本堂にてお参り**、その後座禅会の皆様と**5分間座禅**(右の写真)、**4時15分より懇親会**、**4時半より護持会総会**となります。総会は皆さまから頂戴している護持会費の会計報告など承認いただき、懇親会ではご詠歌の皆さんと観音講の方によるご詠歌の奉詠を数曲お願いします。また南



こうせつさん作詞作曲の「まごころに生きる」を皆さんで合唱します。次に観音講の皆さんで歌っている唱歌を何曲か、みなさんにも歌詞を配り合唱していただこうと思います。今年から「歌の会」の皆さんも加わります。一年の初めを皆さま心豊かに過ごし、良い年であるよう祈念したいと思います。総代様のお顔を覚えていただいたり、人柄に触れていただき、全久院のことをいろいろ語り合いたく思います。皆様の参加お待ちしております。参加希望の方は1月16日(水)までに電話でご連絡ください。

・ ・ ・ 青山俊董師特別講演会 ・ ・ ・

4月12日(土) 3時から6時まで **参加費500円**

座禅会主催により、座禅会で勉強している「従容録」をもとにお話しをいただきます。曹洞宗では「従容録」は坐禅のテキストに当たります。お釈迦さまや達磨さまや、中国の歴史上有名な

老師さま方がどのように悟りを開かれたか、お弟子さま方とどんな禅問答をされたかが解説されており、修行の手助けとなる書物です。難しいお話と思われそうですが、青山師の体験談などを交え分かりやすくお話いただきます。また私たちの生き方にも多くの示唆をいただけます。お話しを聞きたいという方は檀家さま以外の方でもご自由に参加できますので、お誘いあわせておいでください。



．．． 座禅会 ．．．

4月12日(土) 3時より青山俊董師講演会・2月22日(土)・3月15日(土)・5月17日(土)・6月21日(土)・7月19日(土)・9月13日(土) 以上が上半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみるのが是非必要と思います。そんな時間に身をおいてみませんか。

．．． ご詠歌会 ．．．

2月13日(木)・3月13日(木)・4月10日(木) 2時より・5月8日(木)・6月12日(木)・7月10日(木)・9月11日(木)

午前10時より11時半まで、白板 東昌寺副住職 飯島恵道師にご指導いただきます。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱、11時20分より大黒手作りの野菜中心の食事という日程です。現在15人ほどの参加者がいます。気寄りが良く60代から90代の方が元気に集まって来ます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 歌の会 ．．．

1月15日(水)・1月29日(水)・2月5日(水)・2月19日(水)・3月5日(水)・3月19日(水)・4月2日(水)・4月16日(水)・5月7日(水)・5月21日(水)・6月4日(水)・6月18日(水)・7月2日(水)・7月16日(水)・8月6日(水)・9月10日(水) 大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと、好評です。10時から12時。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。

上記の日程には変更する場合がありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。